

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200039		
法人名	有限会社 真和会		
事業所名	ファミリー倶楽部		
所在地	熊本県天草市松島町合津1068-1		
自己評価作成日	令和7年2月27日	評価結果市町村受理日	令和7年 4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	令和7年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方は何だかの疾病をもたれているので、その疾病が悪化しないように体調管理や、状態の把握には特に気をつけ、又主治医との連絡が直ぐ取れ連携がとれているので、利用者の家族の方も安心しておられる。利用者の方にも家庭生活の継続のように、居心地の良い場所作りができる様に支援している。利用者の方も自室より食堂で他の入居者の方とお喋りしながらテレビを観られている時間が多く、午前・午後にラジオ体操を毎日行っているが、体調が悪い人以外は参加されている。また身体的に低下がある方には個別に1日2回りハビリに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かで日当たりのよい田園に立地し、木材がふんだんに使用された館内は、清掃も行き届いており、季節の生け花や写真が飾られ、快適な空間となっている。館内はゆとりをもって設計されている。トイレは共用部からは見えない位置に2か所設置されるなど、プライバシー保護が図られている。また、玄関の施錠や身体拘束、面会制限は実施されていない。普段から近隣へ散歩に出かけたり、隣の畑から農作物の差し入れがあるなど、地域と交流する努力がなされている。利用者全員へ1日おきの入浴提供、柚子やしょうぶ湯などの行事湯、誕生日の赤飯や行事食の提供など、楽しみある生活支援を提供しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人が暮らしてきた生活を大切に、その人らしい生活が送れるように理念をつくり、個々の日々の生活の支援を行っている。	理念と方針はデイルームの誰にでも目につく位置に掲示されている。月1回のミーティングにおいて全職員で確認・周知が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が地区公民館の大掃除参加、資源ごみの収集など、行事参加だけではなく準備の手伝もできる範囲で協力し、交流を図っているが、利用者様は感染等の影響で年々参加が難しくなっている。	地域住民の高齢化とコロナ禍の影響もあり、交流は減少しているが、地域の行事には職員が継続的に参加している。隣接の畑の方から時折収穫物の差し入れがあるなど、日常的な交流がある。	現在の交流を継続しつつ、地域住民がより気軽に来所できるような工夫が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、認知症の理解をしていただくために活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ファミリー倶楽部内で開催しサービスの実際等や、利用者様の状況、他の取り組み等を報告し委員の方からは色々な意見をいただいたり、アドバイスをもらい、サービスの改善や向上に活かしている。	2か月に1回実施。区長や老人会長などの地域住民、家族、市役所職員などのメンバーが参加しており、議事録が整備されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度やその他分からない事は、担当者の方に聞いたりして、また推進会議に出席された時や、書面開催時に職員の方から意見等が聞ける。	運営推進会議での連携と、その他マイナンバーカードの申請方法等、困った事・わからない事は随時確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で、学んできた事をみんなに周知し、取り組んでいる。また身体や生命に危険が及ぶような時は、家族の方と話し合いの場を設け、又同意書を作成し同意を得ている。	身体拘束防止に関する指針が整備されており、定期的に委員会が開催されている。現在身体拘束は行われておらず、日中は玄関の施錠を行っていない。	現在の取り組みを継続しつつ、スピーチロックなど日常に潜みがちな拘束に関しての取り組みが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてはミーティング等の勉強会で、学び絶対ないように注意を払い、防止に努め、もちろん起こってもいない、また虐待は言葉でも虐待になるので、注意して行動に心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの勉強会や外部主催の研修会で、制度の理解をしてもらい、制度が必要な方には活用ができるような支援を心がけている。活用される方は現在おられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には利用者、家族等に入居に関しての説明をし、不安や疑問点を尋ねた上で、理解や納得してもらってから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会は設けてないが、面会時等日頃から不満や苦情を言えるような雰囲気にし、家族の方の悩み等も話しやすい様に心がけている。	以前は意見箱を設置していたが、ほぼ入らないため撤去し、直接面会して苦情や意見を日々のケアの中で聴取できるよう意識して取り組まれている。	定期的に利用者家族にアンケートを郵送するなど、より家族や本人の意見を汲み取る努力が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや職員の交流会で機会を設け反映に生かしている。又普段から遠慮なく意見を言える雰囲気作りに努め、毎日の申し送りや個々の気付いた点が反映できるようにしている。	月に1度のミーティングと、必要に応じて個別の面談を実施し、職員からの意見を吸い上げ、個別の勤務や業務内容に反映している。	定期的に全体で業務内容を見直すなど、個人では気づかない視点を全体で一緒に考える機会を持つなど、さらに業務改善を図る取り組みが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいような環境整備ができているが、職員の急な退職などには、無理をかける時がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の法人内の研究発表会を設け、それに対し自己研修や、グループ研修の機会を作り、職員の育成や研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今は通常の研修会が開催され参加によって、他者との交流によってサービスの質を向上させていく取り組みに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方から直接聞かれたり、また利用者の方から聞かれない時は、行動や仕草で不安なこと、求めていることを観察し受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時の施設見学等から、家族の話を聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にこられる時は、直の入居希望がほとんどで、入居できる時は入居してもらう事ができるが、その他は今利用できるサービスの紹介を行うなど、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様は大家族の中で、生活を共にしてるんだと考え、本人が出来る事はしてもらい日々の暮らしを支えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、些細なことでも今までなかった出来事や、職員と楽しく会話されたことなどを話したりして、良い関係が築け、家族の方と一緒に支えていけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人などには関係が途切れないように、ホームに案内したりして努力しているが、お互い高齢になったり身体的にも外出が、難しくなっている。	馴染みの関係者も高齢化が進み、地域での行事が減少しているため、関係が難しくなっているケースが増えている。	人的な関係が困難となっても、自宅や墓地などなじみの場への定期的な訪問の機会を持つなどの努力が期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は上手くできているが、たまに口喧嘩が起こる場合がある。その時は孤立させないよう話を聴き支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、どうされているか近況を電話で尋ねたり、家族に会ったりしてつきあいを大切にしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や散歩時入居者のふとした言葉の中に新たな思いの発見をする時がある。そのような言葉や表情、仕草等を見逃さず、入居者の満足のいく生活に反映できるよう努めている。	利用者1人1人と話をする中で、個別の思いや希望を聞き出せすことができるよう、意識して日常のケアが行われている。	聴取した希望や思いを簡単な事から実行していくことで、さらに思いや希望を語る機会が増えるなど、正のフィードバックが生まれる取り組みが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人から、又は家族から今までの経過や利用してこられたサービス機関からの情報や普段の生活の中での会話で把握できるようにしている。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、一人一人の日々の生活を観察し、総合的に把握ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な介護計画を作成しそれに基づいて、職員、家族等と話し合い、利用者本位の計画に作成ができるよう、担当者を作り全員で取り組み、ケアプランと介護計画が連動するよう努めている。	アセスメントはケアマネージャーが、介護計画と評価は介護スタッフとケアマネージャーが共同して作成する取り組みがなされている。	必要な帳票類の洗い出しと、様式の確認・統一を図り、ケアマネジメントのPDCAサイクルがスムーズにつながるような取り組みが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果、気付き等の記録は残し情報を共有しながら実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の状況に応じて、母体の医院に入院して治療ができたり、訪問看護の利用ができ、柔軟な支援ができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ、インフルエンザ等の感染の影響で今も共働はできていないが、運営推進会議でのアドバイスで他の機関との協力ができ、地域での暮らしができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得が得られた主治医との連携が常に取れるようにできていて、適切な医療が受けられるような体制で支援している。	主治医の選択は可能だが、現在の利用者は全員同じ主治医が担当している。月に2回の訪問診療と、3ヶ月に1回の医院への受診で血液検査など必要な医療のサポートを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかり付け医院との契約で看護師の訪問があり、日常の健康管理や医療活用の支援はできている。また利用者様の変化時には看護師に報告、相談ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は常に病院関係者との情報交換や相談したり連携に努め、退院後の対応についても情報交換が来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのマニュアルや、意思決定確認等を作成し日頃より終末期のあり方を家族の方と話し合い、家族の意向に添えるように支援している。	重度化指針と看取り指針が整備されている。直近1年間では1名の看取り介護の実績がある。	今後も住み慣れた場所での看取りの選択が可能となるよう、現在の体制継続が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の手順をつくり、全職員が慌てず対応できるように、系列施設との合同勉強会やミーティング等で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を2回実施し、又地域の方の緊急連絡網を作成し協力が得られるような協力体制を築いている。熊本地震では近隣の方からの声かけがあり心強く感じた。	火災訓練が年に2回実施されている。BCPが整備され、災害の際の対策が考えられている。	施設の立地条件や実情に応じた具体的な対策を盛り込み、BCPがこの施設独自のものとなるよう継続した取り組みが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の尊厳やプライバシーを大切に し対応や言葉使いに気を付けている。又記 録等の取扱いにも十分注意をはらってい る。	トイレは共用部からは見えないようになって いるなど、プライバシーに配慮した設計となっ ている。言葉遣いやノックの徹底など日常の ケアの中で意識されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けの介護や、自立を阻害するような 介護はしないように注意をはらって行うよう 話し合って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の方は自分のペースで生活リズム ができているが、認知症が進行し自分で生 活リズムが作れない方には、1日のリズムを 把握し、サイクル作りを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	身だしなみなどは、できない人には支援を行 い、理容、美容等も本人の望む店にいける ように支援しているが、コロナ感染の影響で 施設内での支援が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	今は自立摂取の方がほとんどで、献立の話 をしながら食事をされ、食器の片付けなど自 分であることをされている。	献立は同法人の栄養士が作成し、現場の職 員が調理している。毎日の献立はデイルー ムに掲示され、話題となるよう工夫されてい る。誕生日の際は赤飯のほか、年間の行事 に合わせた食事の提供がなされている。	BGMや飾り付けなど、毎日の食事の 時間が楽しみとなるような工夫が期待 される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養士が立てた献立をもとに調理を行い、 摂取量や食事形態、水分量なども一人一人 の状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	自分でできる人は、自分で歯磨きをしてもら い、介助が必要な人は支援にて毎食後口腔 ケアを行っている。義歯洗浄は職員が支援 している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でできる人には転倒などの事故に気をつけ、支援が必要な人にはさりげなく声かけを行い、失敗がないような支援ができるよう努力している。一人一人の排泄パターンを把握して誘導している。	布パンツ3名、リハビリパンツ6名で、日中は8名が動作自立している。夜間はポータブルトイレ使用者が4名。施設内では尿臭がなく、こまめな確認を意識してケアが実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックで、個々の排便がスムーズにいくように支援し頑固な時は、主治医の指示のもとで下剤を服用してもらい、運動等で排便を促す支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴パターンを把握し、個々の好みに応じた入浴の支援を行い、意志の表現がない人には職員が声かけを行い、入浴ができる様に支援している。又疾患に応じ湯船の時間にも細心の注意を払い快適な入浴となるよう努めている	日曜日も含め、全ての利用者に対して2日に1回の入浴が実施され、清潔が保たれている。柚子湯や菖蒲湯などの行事湯が実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	みなさん自分が休みたいときには、自室に行かれベッドで休まれているが、自分でできない方にはその方の状況を見て休息ができるように自室への移動介助を行うなどして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の処方把握し、服薬時は飲み込みまで確認し支援が必要な人には介助し、変化時には主治医への連絡が取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人には一緒に歌ったり、テーブル拭き、せんたく物干し、たたみなど、その人のできる役割をしてもらったりして、張り合いや喜びのある日々が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染の影響で今は外出支援ができていないが、利用者様家族の祝い事や、仏事等の行事では、家族の方の支援で外出されている。	天気の良い日には施設の周囲での散歩が行われている。新型コロナ禍以降は、行事的な外出が実施できていない状況。	地域の商店に買い物に行ったり、外出が困難であれば移動販売を利用するなど、本人の主体性が発揮できる外出機会の提供が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在家族からの現金の預かりはしていないので、必要な物は家族様にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話がほとんどで、利用者様からの依頼は少ないが依頼があれば応じている。家族様からの連絡等での手紙はあるが、利用者様からの依頼は今まではできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花、行事の飾りつけで季節感を感じてもらい、それによって利用者内の会話に一助にもなっている	静かで日当たりが良く、穏やかに過ごすことができる環境にあり、施設内は木材をふんだんに使用してぬくもりのある空間となっている。日常的に季節の草花が活けられており、壁には写真が飾られ、清掃も行き届いており、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居場所を確保し、自分なりに自由に過ごされたり、利用者同士の語らいには食堂にきて過ごされている又個人の部屋を訪問しお喋りをして過ごされる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や好みの物を持ち込まれたりして、本人が好きなような使い方をされている。	使い慣れた家具を持ち込んでもらったり、家族の写真が飾られるなど、本人にとって自分の場所として落ちついて過ごすことができる空間づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗を招かないような環境づくりを心がけ、自立した生活が送れるよう貼り紙での工夫をしている。		